

4 友達とおしゃべりをする



4課では、日常生活のなかで限られた日本語でおしゃべりをする場面でのインターアクションに必要なポイントを学びます。

例1 大学で

1. 各コマについて

1コマ目	リズ（左）は母国の教室でクラスメートと話している。朝の何気ない挨拶から、おしゃべりへと話題が展開している。
2コマ目	リズ（左）は留学先の日本の教室で日本人のクラスメートに「お元気ですか」と話しかける。クラスメートの日本人学生（右）は戸惑う。
3コマ目	リズは、おしゃべりのきっかけを作ろうと、「何か新しいことがありましたか？」と聞くが、日本人学生は戸惑ってしまう。
4コマ目	たまたま廊下で会った知り合いの日本人学生に「どこに行くのか」「食事は済んだのか」など話しかけられて、逆に詮索されているような気持ちになって戸惑っているリズ。

2. 話し合いのポイント

- 4コマ目の「どうして聞くの？」は、リズが戸惑っている一方で、日本人はもう昼食が済んだか聞いたり、昼食に誘おうとしているのではなく、軽い挨拶的に「昼ご飯、食べた？」と聞いています。そこにリズの違和感が生じています。日常的に使う挨拶には、それを使うコミュニティーの社会文化や習慣が反映されています。単純に翻訳しても通じないことがある点に気づいてもらうことがポイントです。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- こうしたコミュニケーションや対人関係を円滑に進めるための埋め草的に使われるフレーズにはどんなものがあるか、学習者の言語での例を挙げてもらい、話し合いをしてもいいでしょう。
- 学習者同士の出身地が違う場合には、朝起きてから夜寝るまでにいつ、誰にどんな挨拶をするか、どうしてそのような挨拶をするか、聞いてみるのもいいと思います。
- この漫画の例に対する学習者の反応が薄い場合、日本語や母語以外の言語で不思議だと思ふ挨拶はないか聞いてみて、話し合いにつなげてみるのもいいと思います。
- “Have a nice weekend!”なども英語圏の留学生が「日本で何と言うのか」とよく質問する挨拶です。最近は日本人同士でも「よい週末を」と言うことがありますが、まだ十分定着しているとは言えないかもしれません。こうした、母語にはあり日本語にはないような挨拶をしたいとき、どうするかについて話し合ってもいいでしょう。

例2 電話で

1. 各コマについて

1コマ目	日本人学生（左）は、明日の練習の集合場所と時間を伝えている。朝早い時間なので大丈夫か軽い心配の気持ちもあり、「だいじょうぶ？」と尋ねた。アントニオ（右）は「うん」と素っ気なく返事をする。
2コマ目	日本人学生は「うん、わかった」「じゃ、また」「7時だね」などの返事があり会話が終結に向かうことを期待している。しかし、アントニオが「うん」としか言わないので日本人学生は不安になる。もう一度、必要なところを繰り返して言ってみたが、アントニオは「うん」と言うだけ。
3コマ目	アントニオが「うん」としか言わないので、日本人学生はどう電話を切っていいか戸惑っている。しかたなく日本人学生のほうから「じゃあ、明日ね」と会話を終結させるシグナルを送るが、アントニオは相変わらず「うん」と答えるだけ。
4コマ目	アントニオが「うん」とだけしか言わないので、電話を切ることを伝えたり、「じゃ、じゃあ、また明日ね」と会話終結のシグナル「じゃ」を繰り返す。やっと最後にアントニオが「また明日」と言って会話が終わった。

2. 話し合いのポイント

- ここでは、会話を終結させる際の談話の流れと、会話を終結させるための戦略に気づいてもらうことが目的です。漫画の例では、日本人学生が要件をまとめたり「じゃ(あ)」と言ったりして、会話終結のシグナルを送っているのに対し、アントニオが「うん」という返事しかしないために会話がスムーズに終わらなくなっています。漫画に描かれている会話終結のシグナル、相づちの特徴とそれが会話終結に与える影響に気づいてもらうことがポイントです。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- まず、日本人学生が戸惑っている理由を理解してもらう必要があります。漫画の「……」というように相手は何かを言うことを期待して黙っていることや何を戸惑っているのかなど、必要に応じて日本人学生の気持ちを代弁してもいいでしょう。
- 漫画に描かれている日本人学生の会話終結のシグナル、アントニオの相づちの特徴を挙げてもらうといいでしょう。
- 発展として、日本人の話し方について気になっていること、気づいたことがあれば話してもらうといいでしょう。
- 会話終結部の特徴についての気づきを促すため、母語や学習者がよくできる言語では、どのように会話を終結させるか聞いてみるといういいでしょう。

例3 エレベーターの中で**1. 各コマについて**

1コマ目	スヨン（真ん中）と日本人学生のクラスメート（左右）が午前中の授業後、1階に下りるエレベーターを待っている。3人でおなかのすいたことや何を食べるか話し始める。
2コマ目	エレベーターに乗り、スヨンは話し続けるが、日本人学生は会話をやめる。日本人学生はスヨンの質問に答えない。
3コマ目	スヨンは、日本人学生が何も話さなくなったので、戸惑っている。
4コマ目	エレベーターを降りた途端、エレベーターの中では無視したスヨンの質問に答える日本人学生。間を置いた日本人学生の反応に戸惑うスヨン。

2. 話し合いのポイント

- どのような場でおしゃべりをするか、場とおしゃべりの関係について、学習者に気づいてもらうことがポイントです。
- ここでは「日本ではエレベーターの中で話さないように」というルールやマナーを教えることが目的ではありません。日本人であってもエレベーターの中で話を続けることもあります。それには、年齢、性別、社会的な立場、地域差など様々な要因が関係していると思われます。エレベーター内で日本人が会話をしている場に居合わせた経験がある学習者がいたら、どんな人だったか、どんな状況だったかなどを詳しく聞いて、それらの要因に学習者の目を向けてもいいでしょう。

3. 話し合いを進めるときのコツ&発展させるなら……

- 日本にいない学習者や日本人が多い場所でエレベーターを使う環境にない学習者にはこの漫画の意味を理解することが難しいと思います。その場合には、教師がこの状況を説明し、例えば、携帯電話で話している状況の違いについて話し合うなどしてください。
- 携帯電話で話してもいい状況について話すと、より話し合いが盛り上がるのが予測されます。日本では乗り物やエレベーターの中など他人と空間を共有しているところではなるべく使わない傾向がありますが、国によってはどこでも携帯が鳴れば電話に出て話す国もあります。
- 授業中おしゃべりをしないことは多くの文化で当然だと思いますが、他にも話さないことが暗黙のルールになっている場所や状況があるか、話し合うといいでしょう。
- 逆に、混んでいるエレベーターで「押しください」と頼まずに、無理矢理後ろから降りる階のボタンを押すことに違和感を持っている人もいます。こうしたことを話題にしてもいいかもしれません。